

果樹病虫害発生予察調査結果（4/23 調査分）
（三条、加茂、田上地域）

4月23日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

現在生育について、ナシとモモでは平年よりも10日ほど早く推移しています。

（モモ）

定点園地ごとに100花について調査しましたが、花腐れ（灰星病）は確認されませんでした。一部の園地で縮葉病が確認されています。

モモハモグリガについて、フェロモントラップ調査では発生量は確認されていません。IGR剤は産卵痕が見え始める頃が散布適期となります。

（字かき症状が始まってからの散布では遅効性のため効果は期待できません）

また、せん孔細菌病ですが、4月下旬頃から春型病斑が確認されます。今後の天候次第では多発生する可能性もあるため、徹底した予防防除に努めましょう。

（ナシ）

定点園地ごとに200果そう葉を調査した結果、一部園地で黒星病の芽基部病斑が確認されました。開花期間～2週間後までの降雨で感染の危険性が高まります。昨年発生が多かったところでは必ず発生するという認識を持って予防防除を徹底してください。

セイヨウナシ褐色斑点病については、近年の落葉収集の徹底により子のう胞子からの飛散は少なく推移しています。しかしながら、一部の園地で発病葉が確認されています。今後の降雨等によっては葉痛みから急激に発病することもありますので、薬剤散布間隔が空きすぎないように注意するとともに摘葉・摘果等耕種的防除の徹底を図ってください。

降霜被害については、11日の低温により新高を中心に花器の損傷でめしべや胚珠の枯死が発生しています。また、18日には降ひょうがあり管内全域で被害が見られます。定点園地ごとに100果そうについて調査し、西洋なしの被害は少なく被害果そう率は10%以下、日本なしでは平均40%ですが、ほとんどの果そうで被害が見られた園地もありましたので、5月10日に改めて被害果調査を実施させていただきます。

今後は果樹全般でカイガラムシおよび病害の最重要防除期に入ることから散布間隔が空かないよう予防防除の徹底に努めましょう。有効積算温度によるふ化時期はクワコナカイガラムシで5月9日頃と予測されています。

※薬剤防除は防除暦の散布時期ではなく生育にあわせた対応をお願いします。

なお、これに関連した病虫害情報や生育情報等については農業普及指導センターよりJAをとおして情報が送付される予定です。

○次回の調査は5月10日（月）です。

農家調査員の皆様は次回から調査樹ごとに新梢5本の調査となります。

| |
|------------------|
| 担当：中越支所 果樹共済係 |
| TEL 0258-36-8105 |
| FAX 0258-34-8020 |